

# 京橋の印刷

9月30日2010・No.119

東京都印刷工業組合京橋支部  
〒104-0032 東京都中央区八丁堀 3-17-9  
京華スクウェア 2F  
電話 3552-1855 FAX.3297-3790  
http://www.kyobashi-shibu.org  
発行人 小宮山 貴史

● 支部長就任にあたって…小宮山貴史……………	1	地区新役員紹介……………	6
● 平成 22 年通常総会……………	2	● 座談会「本部と支部との今後の連携について」…	8
● 平成 22・23 年度京橋支部新役員……………	4	● 京青会だより……………	17
● 平成 22・23 年度京橋支部新地区長……………	5	● 支部の動き……………	19



## 支部長 就任にあたって

支部長 小宮山 貴史

このたびの平成22年通常総会において、京橋支部の支部長に選出されました小宮山印刷の小宮山です。90年に及ぶ歴史ある京橋支部の支部長という大役を仰せつかることになり、その責任の重さを痛感しています。是非、皆様方のお力添えを頂き、その任を全うしていきますので、よろしく願っています。

さて、印刷産業は、成熟期に入り久しくなっていますが、ここ数年の業界を取りまく環境には、印刷業というビジネスモデルに変化を促す兆しが現れ始めています。そのような中、東印工組では業態変革推進を旗印にワンストップサービスを代表事例とし組合員に変革の必要性を訴えてきました。それに呼応し、各支部でも勉強会や実践事例の研究等、支部員に対し情報の発信を行っており、京橋支部においても「IT委員会」や「環境セミナー」等、具体的な活動を行って参りました。

今後は、これらの活動実績を各組合員企業において、実践、行動に結びつけていくことが必要になって参りますが、各企業には、各社各様のビジネスモデルがあり、その選択や採用は、自ずと各企業の判断や努力にゆだねざるを得ません。しかしながら、この京橋支部においては、新技術や知識に対する意欲や成長への思いの強い若手世代の青年会（京青会）の方たちや、豊富な経験と知恵を持たれた上の年代のベテラン経営者の方たちが多く居られます。なんと幅広い人材が集まっていることでしよう。この様な人材の宝庫であるこの組織を会員自身が活用せぬ理由はありません。それを踏まえ、今期は従来以上に組合員が集まる「場」、そして切磋し合う「場」の提供を念頭に支部事業の企画・運営を行っていく所存です。

また、これからの変化の激しい時代、業界を問わず、技術的な知識やノウハウの蓄積は勿論、経営力が問われてきます。経営という言葉の語源は仏教からきたもので「人間性を高める」という意味があるそうです。商売繁盛と伴に自身を律するということの意味を含めて「経営」力を磨くため、是非この京橋支部の人的なパワーを大いに活用して頂きたい。と同時に、京橋支部のこのようなパワーを会員企業のお客様にもPR出来ればと願っております。

最後になりますが、今後、皆様方からのご指導、ご支援を頂きながら、参加意義のある支部活動を目指していきますので、どうぞ、よろしく願っています。

## 平成22年京橋支部通常総会開催

於・銀座ラフィナート

京橋支部平成22年通常総会は5月19日(水)、午後6時より銀座ラフィナート「日光の間」において開催されました。

総会は森山副支部長の司会で始まり、羽生支部長が執行部を代表し挨拶を行いました。総会は議事に入る前に議長、副議長の選出があり、議長に入船地区から中島太樹氏、副議長には八



丁堀地区の十文字明雄氏  
が選出され、両氏自己紹介のあと議事へと移行しました。

第1号議案・平成21年度事業報告は金山副支部長より、第2号議案・平成21年度収支決算報告は小宮山副支部長より報告があり、第1号議案・第2号議案ともに満場一致で承認されました。続いて監査報告は神田・尾島両監査が報告し大拍手で承認されました。次に第

3号議案の平成22年度事業報告計画案、第4号議案の平成22年度収支予算案は一括上程となり、第3号議案は金山副支部長、第4号議案は小宮山副支部長より説明があり、ともに「異議なし」の声で採決されました。

続いての第5号議案・次期役員承認は推薦委員会荒川龍治委員より「次期役員推薦委員会」をふまえて

の次期役員の発表があり、(以下敬称略) 支部長に小宮山貴史・小宮山印刷(株)(京橋地区)、副支部長には森山照明・(株)森山印刷(銀座地区)、永井 博・永井印刷工業(株)(入船地区)、白橋明夫・(株)白 橋(八丁堀地区)、田島久義・(株)久栄社(新川地区)、市川牧男・(株)三和印刷社(湊地区)の5氏と監査には羽生 直・(有)羽生印刷(入船地区)、小森 彰・小森印刷(築地地区)の各氏が次期役員として大拍手で承認されました。

この後、新役員全員が前へ進み、新役員を代表して小宮山新支部長が「①世代を超えて集まれる場づくり②行政や関連業界







との連携強化③支部内各地区の活性化④支部財政の見直し等に力を入れて行きたい。」また「90年の歴史を築き上げた先輩や現組合員を汚さないように、1期2年間を邁進したい」と挨拶し、新執行部の方々を紹介しました。

これにより議事はすべて終了し、中島議長、

十文字副議長が拍手のうちに退任しました。

この後、司会の森山副支部長より来賓の方々を紹介があり、東京都印刷工業組合理事長・水上光啓様、中央区長・矢田美英様、中央区区民部部長・齋藤 弘様、中央区区民部商工観光課課長・黒川 眞様、中央区工業団体連合会会長・水野雅生様、東京商工会議所中央支部事務局長・安寫 潔様、東京製本工業組合京橋支部支部長・井上貴司様、中央厚生事業協同組合理事長・長山 浩様、東京都印刷工業組合日本橋支部支部長・長谷川 豊様、そして(社)東京グラフィックサービス工業会中央支部支部長・早坂 淳様が紹介されました。

総会は永井副支部長による閉会のことばで滞りなく終了となり19時15分よりの懇親会へ会場を移しました。



## 平成 22・23 年度京橋支部新役員

支部長  
小宮山 貴史  
小宮山印刷(株)



副支部長  
市川 牧男  
(株)三和印刷社



副支部長  
森山 照明  
(株)森山印刷



監 査  
羽生 直  
(有)羽生印刷



副支部長  
永井 博  
永井印刷工業(株)



監 査  
小森 彰  
小森印刷(株)



副支部長  
白橋 明夫  
(株)白 橋  
(会計)



京青会会長  
田 畠 義之  
(株)セントラルプロフィックス



副支部長  
田 畠 久義  
(株)久 栄 社



## 平成 22・23 年度京橋支部新地区長

湊地区長  
加賀美 健二  
加賀美印刷(株)



京橋地区長  
細田 剛  
(株)金陽社印刷所



八丁堀地区長  
十文字 明雄  
三雄舎印刷(株)



銀座地区長  
新井 修次  
研友社印刷(株)



新川地区長  
宇野 一平  
宇野印刷(株)



新富地区長  
神林 克明  
神林印刷(株)



月島地区長  
鈴木 聡  
銅版印刷(株)



築地地区長  
布施 繁  
山之内印刷(株)



事務局  
横田 俊美  
京橋支部



入船地区長  
杉江 俊昭  
中和印刷(株)





# 京橋支部印刷人青年会 (京青会) 会長就任にあたり

(株)セントラルプロフィックス 田島 義之

平成二二・二三年度の会長を務めさせて頂くことになりました。皆様、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

年功序列的な流れで会長に就任させて頂きましたものの、現在の京青会の置かれた状況は厳しく、主体性を持つてしっかりと会の運営に当たらねばならないと、身の引き締まる思いです。現在、会員数は20名と、ここ数年は明らかに減少の一途をたどっております。そして今後も、基本的にはこの流れが加速しそうな状況です。また、この厳しい経営環境下、各社でのリス



トラの影響か、会員の多くが会社ではプレイングマネージャー状態で忙しく、会の各種催し物に参加しにくい状況が続いています。

このような状況下、京青会の活動を真に価値あるものにしていかねば、それらの参加率の上昇や、ましてや新会員のゲットは困難になると痛感し、更なる工夫の必要を感じております。

京青会のモットーである「よく学び、よく遊ぶ」を通じ、会員それぞれの成長や活力アップ等につながる、すばらしい会を継続していけるよう、諸先輩方を見習いつつ今の厳しい時代に柔軟に合わせ、鋭意努力していく所存です。

是非、これからもすばらしい京青会が永続していきますよう、新しい仲間が増えていきますよう、今後ともご指導、ご支援のほど、何卒、宜しくお願い致します。

### 某月某日

於岩稲荷田宮神社「東海道四谷怪談」の主人公お岩さんの伝承を持つ神社が中央区新川二丁目二十五番十一号にあります。御祭神は豊受比売大神、田宮於岩命。明治の初め歌舞伎役者や崇敬者の願いを受けて芝



新川お岩稲荷



お岩様墓

居小屋などに近く便利の良い当地に創建されました。四谷左門町にも於岩稲荷神社があります。お岩さまのお墓はこれとは別に西巢鴨の妙行寺にあります。

(山崎)



# 座談会：「本部と支部との 今後の連携について」

日 時：平成22年4月5日

場 所：京華スクウェア 2階ロビー

参加者：花崎副理事長、羽生前支部長、小宮山支部長

編集委員：山崎（銀座地区）



## 第1部

○花崎 まず羽生支部長に対しては、大変長い間ご苦労様でしたということと、京橋支部、東京都最大の支部ですからね、それは大変重責だったと思います。あとITの色々な研究会だとか、支部の中でそういう活動もされ非常に京橋支部支部長としてその責務を果たされたのではないのかと僕は認識しております。またそれを引き継ぐ小宮山さんも厳しい時期に支部長としてやられるのですが、これも今までに大変厳しい支部の運営になると思いますので、その辺是非よろしくお願ひしますということです。

今期東印工組では委員会はいくつか統廃合になったのと、あと専門委員会というのが今度は3つほどできます。なぜ専門委員会を設けたかと言うと例えば教育労務と広報委員会と小企業専門委員会とその3つが専門委員会になるのですが、ある程度この分野に得意な人を集めてやりたいという本部の意向があるんですね。ですから他の委員会は各支部から出てきていただいて、組合・委員会が決まったことを支部に流していただく。専門委員会は、逆にそこで色々と案を出してもらったり、企画を練ってもらったり、そういう作業なので専門的に適した人の集まりで運営したいということですね。

例えば広報委員会というのが今度新しくできるのですが、昔から組合って本部からきた





<副理事長>  
花崎氏

事を支部の会議で説明して、それをまた地区に持って帰って説明する。いわゆる伝言ゲームみたいな形ではないですか。これは昔からのずっと流れにاندますよ。ITがこれだけ進んで色々情報網ができてるんだだけでも、依然として組合の情報の流れというのが人から人への伝え方が主流であつたと。それをもうちょっと組合の組合員に対する情報量を太くしようということで、例えば会報をもっと充実しようとか、ホームページをもっと充実しようとか、直接Eメールを使って流せないかとか、そういうことを検討していく委員会なんです。情報量を太くするというのは昔から組合で言われていて、なかなか着手できなかったことだつたんですね。それでたぶん羽生さんも苦労されたと思うんですけど、本部から来た情報を組合員の方々まで流すことが如何に大変だということです。それがある程度、企画立案ができそうな人に集まっていたら考えていこうというのが専門部会なのです。

教育労務もやっぱり専門性が高いので教育



<前支部長>  
羽生氏

労務に詳しい方に集まっていたらどうか。小企業専門委員会、これもやっぱり小企業に對してどういう情報を流していこうというのはある程度そういうことに知識のある方に集まっていたらいいということ、専門委員会と普通の委員会と2つに分かれたんです。

○小宮山 昨年度に僕は教育労務委員会というのに参加させていただいたのでですけども、結構行くと良いことをやられているんですよ。5Sとか色々具体的な活動を。結局私が力不足があつたのでそれを支部に持つて帰って、さっき言いましたけれども地区の方々に下ろすところまでいなくて、たぶん支部の皆さんは本部からの広報物の何行かを読むだけで終わってしまったと思うんです。今度花崎さんがやられるその広報のところというのは非常に組合活動は何なのかというところ、1番重要なところだと思いますよ。そういった意味で非常に我々の方もその辺は期待したいところだと思いますね。

○花崎 どういう情報をどういう手段で送った



<支部長>  
小宮山氏

らいいかというところは是非支部長の方からも色々意見を聞きたいし、支部長が1番苦労している部分だと僕は思うんですよ。だからそういう困っていることも是非上げていただいですし、それを解消するような情報の流し方をしていきたいなと思っています。

○羽生 今まで自分でも薄々感じていたのはやっぱり一方通行だったということで、結局各支部の要は現場の監督である支部長ですが、支部長の情報が支部長同士で交換がなされていなかったということで、1番支部長の皆さんから不満が出たのではないかなと思います。ですから本部からお話は聞くけど各支部の現場からのお話は全然伝わらないという形が多かつたからということですね。

○小宮山 今、情報というのは与えられるものではなく、取りに行くものだというのは本来の姿かもしれないけれども、なかなかそうは言ってもやっぱり難しいと思います。そうするとやっぱり本部でやられている情報というのは流してもらわないと絶対読まないと思います。わざわざ組合員から取りに行くという



＜編集委員＞  
山崎氏

のはしなと思うので、是非そのところはそういう流れを作ってもらおうと、また組合活動の活性化につながっていくのかなと思います。

○花崎 そうい手段の1つとしてインターネットとかEメールを使うというのは可能かどうかということ、組合員にどれだけパソコンが行き届いていてEメールの環境がどれだけあるか、そういうことも調べながらそういった形で情報が流せれば人伝えよりはいいのかなという感じはしますし、もしインターネットの環境が整ってないのであればそのお手伝いもしましょうというところは考えています。

○羽生 そのインフラは極端な言い方をすれば支部は支部で勝手にやってくさいということか、それとも本部が面倒をみますよということですか。

○花崎 例えば組合員でうちはパソコンがなくインターネットも繋がっていないということがあれば、本部として何か業者さんを使ってそれはお手伝いすることはしようと思っ

います。

○羽生 そうですね。そうすると支部は全員皆さんがネットを保持してくださいと同時にメールアドレスを必ず持つてくださいということですよ。

○花崎 そうですね。

○羽生 そうすると、パソコン教室というのを開かなくては駄目ということですよ。

○花崎 是非京橋支部でもこれだけセミナーをやられているので。

○小宮山 昔何か、やりましたね。

○花崎 昔やりました。

○羽生 我々が京青会の時に約40年前頃の時にパソコン教室をやりました。

○花崎 やってましたよ。

○小宮山 いやそんなに前ではなくて、何年前でした。このハイテクセンターを借りて。何やったかは覚えていないですが、たぶんメールをやり始めた時かな。ここ10年くらい前の話だと思います。

○花崎 京橋支部は一番こういう環境が整っているから、是非それにいち早く環境を整えていただければ他の支部のお手本になるのかなと思います。

○羽生 話が飛んでしまいますけど、山崎さんは抵抗はないですか。

○山崎 いや、抵抗は全然ないです。

○小宮山 今はもうお客様からそういうことが出来るのが要求されるケースもありますから。

○山崎 そうですね。メールで入稿がありますかなんて。

○小宮山 今はその支部内のネット化率というのですかね。調べたことはないですよ。

○山崎 僕は本当はやりたかったけど逆にやれなかったというか。

○小宮山 それは何か理由があったんですか。

○山崎 いや、皆さんのインフラがどうなっているのかちっとも分からなかった。

○小宮山 1回そういうのを調べてみるといいですね。

○花崎 是非支部でその辺の調査もしてもらいたいです。組合員から設置したいという希望があれば本部にも相談していただければ。東日本NTTがお手伝いしていましたね。

○羽生 していますよね。ではそれは小宮山さんになってからの宿題ですね。

○山崎 光通信にしてメール代が安くなりますよ。でも地区長には横田さんから議事録を送ってもらっています。

○小宮山 そうですよ。

○花崎 是非全組合員までそういう環境が、お客様との関係でも僕は必要だと思いますしそれは是非京橋支部、一番環境が整っているのは是非モデルケースとして何か立ち上げていただけると良いと思います。

○小宮山 紙を使わないということにちよつと抵抗があったのではないですかね、印刷会社として。今はもうそういうことはないと思いますが。印刷物を配布するにもネットでは困

るとか。今はもうそういうアレルギーはないと思いますので、是非1回やってみたらどうでしょうか。

○羽生 では早速インフラを整えましょう。それには横田さん、予算組みしましょう。

○横田 はい。

○羽生 予算を組み、インフラを整える。

○山崎 インフラの整備。

○花崎 NTT東日本の力をお借りしたり何かすることで色々と指導してもらったり。

○羽生 組合員が全員メールアドレスをもち、それができない人は息子さんや娘さんに頼むしかないですね。

○小宮山 1回その辺、どの程度インフラが整っているのか調べてみる。そしてネットで例えばどういことができるのかというのをやはり1回検討する必要があるのかもしれないね。

○花崎 先ほどお話があった紙とそういうネットの関連ですけれども、昔は情報伝達って紙しかなかった、印刷しかなかったと思いますが、非常にあの情報の流れが多様化してきたというのこれはもう否定はできない事実だと思います。我々は印刷からネットに移ってしまったものをあきらめるのではなく、ここまで我々の仕事にしましょうよと。でないといろんな縮小していってしまうので、業界としては、例えば今まで印刷物を作っていた物がネットに変わったら、インターネットの管理まで我々の領域の仕事として取り組みま

しょうよと。そうすれば業界の規模というのは縮小しませんが、そこで我々全印工連でワンストップサービスということで印刷の周辺の仕事もできるだけ取り組みましょうよと。そのために設備や人を投入するのではなくて、それはとりあえず専門の業者と組んで取り込んでいきましょうと。ある程度自分のところでそういうノウハウができた段階で設備投資をするなり何なりと。というのは考えられるのですが、まず自分の会社からネットに移ってしまっただけではなくして、

これまで追いかけていこうよということでは我々全印工連でも盛んに言ってきたのですけれども。

○羽生 でもそれは実際大変でしょう。

○花崎 大変ですよ。

○羽生 自分のところでやっているから分かりませんが、それを、皆さんこれやりなさいと言っても大変な努力ですよ。

○花崎 そういところは羽生さんのところと協力して、コラボレーションでやっていくという。自分のところで人を育てて設備を買ってというのは難しいと思いますよ。だからそういうところは専門のところと組んでとりあえずやっていくしかないのかなと。

○羽生 やっぱそういうワンストップサービスを推進していこうよということでしょうか。

○花崎 そうですね。やっぱりどうしても仕事はネットとかそういうものに移って減っていく傾向がありますから。それをあきらめてし

まうのではなくて、そこまです仕事をとしてこじつけないと、そこまで取るような努力をしていかないと我々の業界が縮小していつまう。

○羽生 僕自身が思っているのは、これからは印刷のビジネスが大量に印刷物を作る事ではなくて小ロット小部数で、それでリアブル化をして気がつけばイコールの部数、大量の部数になって、要はお客様お1人お1人にパーソナル化された印刷物を提供していつて、結局考えてみれば絶対量の部数は変わらないというような形になると思うのです。それにはやっぱりITが必要だろうということ、何で必要かということ自体が皆さん分からないです。

○花崎 インターネットって載ってしまおうと世界中に同じ情報が出回ってしまうじゃないですか。印刷物というのは、今おっしゃったように個別の情報を送れますよ。そこが僕は印刷がインターネットに勝てる部分だと思いますよ。

○羽生 おっしゃっている通り、一番そこが印刷業者が勘違いしているところです。最初に提案する見積書なり提案・プレゼンする時にはやっぱり紙のプレゼンをしなさいとお客様は納得しなさいですよ。画像で出しても駄目ですよ。

○花崎 インターネットにできなくて印刷にできるというのはやっぱりその部分だと思いますし、印刷が減っていくわけではないので



すが、そういう使い方を覚えていくということがないと難しいのかなと。

○小宮山 そうですね。今、Web to Print というのが盛んじゃないですか。あれって一見すると我々の仕事がそっちに取られているという錯覚を起こすと思いますけれども、違うと思うんですよ。Web to Print という形になって今まで印刷をあきらめていたような人たちがこれだったら印刷を使ってみようかなという形になって、100とか200とか我々が今まで見向きもしなかった部数のものが印刷できるようになったということだと思えますよね。だからまだまだ印刷を違う形で切り開いていくと違う価値が出て来るのかなという気がしますよね。そういう意味では僕はWeb to Print というのは新しいやり方を掘り起こしたそういう意味では我々は反省するべきところなのかなと見てはいますけれども。もっともっと印刷の価値を引き出すためには何か我々がやり方を工夫するというのを、ネットを使うとか色んな技術を使いながら印刷を活性化させていくということが大事な気がするけれどもね。ではそれは何なのかというところがなかなか出てこなくて困っているのは事実なのですけれどもね。

○花崎 まず自分のところからなくなってしまう仕事は、まず自分のところで確保するという、まずそこからやってみたらと思いませんけどね。ある日これがネットに変わってしま

まったらネットに変わった部分の仕事は自分のところで受けるような努力をするとか。

○小宮山 今、結構話題になっているiPad ではないですけど、電子書籍というのがこの業界にどう影響を与えて来るのか。出版業界含めてかなりインパクトがあるような気がしますよ。あそこら辺をどう印刷会社が、新たなビジネスのチャンスとして見出すのかなというふうには思っていますけれども。しかし、これといったものは出てこないですけれどもね。

○花崎 例えばこの印刷をうちでやらせていただければ、iPad 用の出口を用意いたしますと。

○小宮山 そういう切り口ですね。

○花崎 だからiPadにどういうフォーマットで出したらいいのかということをやっぱり理解して。だけどそこでiPadに取られればなしではなくて、何かそこまで取り込むという努力をやっぱりしていかないと業界が縮小していつてしまうのではないかなと。

○小宮山 電子化されることによって今まで出版できなかった人が出版のチャンスを得られることもあるわけですね。それから今度は本格的な出版物にということになっていくと、新たなチャンスという可能性もあるだろうし。何か色々可能性はあるだろうけれども、実際どうなるか、フタを開けてみないと分からないわけですね。

○花崎 とりあえずネットに載つけてみて売れ

たら本にするという可能性がね。今まで売れるものしか本にできなかったけど逆に色々やってみて、売れる物だけどんどん本にしてという可能性が広がるというね。

○小宮山 今まで若者の活字離れという話がずっとあったじゃないですか。でも良く考えていくと若者は紙で活字を読むのではなくて、いわゆるディスプレイの上で活字を読む。だから決して活字離れはしていませんよ。というのが段々と見えてきているんですよ。やっぱり色々な考え方を持っていないと間違った認識をしてしまうのだなというふうに思いますよね。電子辞書というもので、辞書は電子化されてしまいましたよね。あれはあれでもうそういう流れでしようがないのかなという感じはしますけれどもね。

○花崎 僕は本当に印刷が好きで、印刷物の価値ってすごく高いと思うわけだけど、でも世の中の動きが必ずしもそうではないという現実。そうであればそっちに流れ込んだものがやっぱり本当の自分のビジネスとして取り込む努力も一方ではいけないう。その辺を痛切に感じますよね。

○羽生 この辺で話題を変えてもいいですか。

○小宮山 はい、どうぞ。

○羽生 1つは折角皆さんがインターネットのインフラを整えるのでしたら仕事のコラボレーションと同時に共同仕入れとかそういうことまで全部できるわけです。極端な言い方をしてしまうと。そうすると皆さんがどこが

暇だから、どこが忙しいと、お互いに無駄な設備の過剰設備とかしなくても済むし、やっぱり社員の労働の分配率もきちんとできるのではないかと。その辺を思っていますけれどもね。そこまでいくのはちょっと難しいかなと思っと思っていますけどね。本来は組合がそういうものを研究してやれば一番早いと思いますけれどもね。それから資材の適正な購入方法というのを。

○小宮山 資材の購入の仕方にしてもね、やっぱりビジネスモデルという大袈裟な話になっちゃうけれども、それぞれ各会社のやり方というのがあると思います。それを共同でというのが本当にいいのかなというところもありますけれどね。

○花崎 例えば支部ホームページの掲示板みたいなものを見てもらって、例えばこういう難しい印刷をお客様から頼まれたがどこか知りませんか、みたいなことを掲示板に書くと、知っているよとか自分のところでできるよとか、そういうようなコラボレーションの何かページになるものができればね。

○小宮山 確かホームページ上にそのようなイントラはなかったですかね。

○花崎 昔そういうことをやっていましたよね。

○小宮山 何かそういう発想はあったのだけれども、結局誰も活用しないというので止めてしまったのかな。特に支部のホームページを見ない人には全く意味がないけれどもね。確

かホームページの立ち上げ時にはそんな発想があったと思いますよね。

○羽生 本当はそれは逆に言うと、見に行くのではなくて皆さんに発信させてしまえばいいですよ。

○花崎 そうですね。メールでね。

○羽生 メールで全員に発信させてしまえば見る、見ないは自由だけど、見た限りはこういうのはうちには関係ないやということでも消去してしまえばいいことなのですけどね。

○小宮山 花崎さんはこのところずっと業態変革で推進プラン・実践プランをやってこられたじゃないですか。結構あれには色んな批評があるわけですよ。良いという人もいれば、役に立たないという人も色んな意見があると思いますが、花崎さんは実際ああいうことをやられてきてご苦労されたことということとはどういうところなんですか。

○花崎 リーマンショック以後、景気が悪くなって、一方で構造的な変化が先ほどから言っているように起きていますよ、印刷業界に。それはもう印刷からネットに移ったり、iPadに移ったりキンドルに移ったりみたいな、そういう景気の悪さと構造的な変化と両方が来てしまって、今業界としても非常に悪い状況にきています。これは印刷業界だけの問題ではないですよ。全ての業種、全ての企業に降りかかってきている問題だと僕は思うわけです。だから印刷業界だけがそうになっているという悲観ではなく

て、全業種なっているわけですからいち早く時代の流れに企業が変わっていきましようというのが業態変革で。浅野さんの時に業態変革推進プランというのを4年間やってきて非常に良いことをしてきたのだけれども、なかなか実戦に結びつかないということがあったので、では具体的にそれを実戦に移そうということ、僕はこの2年間こういうバージョン1、バージョン2というものを出して具体的にやってきたのですが、特に地方の会社辺りは本当に厳しい状況ですから、真剣に取り組んできているところは多いですけど、まだまだ東京は仕事に恵まれているというか、なかなか逆に言うと東京の方が遅れているケースが多いという。印刷物というのは非常に都心に集中している産業ですから、我々ちょっとのんびりしすぎてしまっているのかなという感じもするし、逆にもう業態変革は必要ないというところは、逆にもうそれなりに体制ができています会社だと思っるので、それはそれで素晴らしいと思うし。一番まずいのは、やらなければいけないけど何もやっていないところへ対し、いかに1日でも早く足を踏み出すかということ促しているのですが、なかなか周りが言ってもそれぞれの会社の方がそういう気持ちになっていただかないと。組合としてはそれ以上何もできないという部分があるので。何か東京が恵まれていると言ってもそう安閑としてられない状況ですから、1日でも早く手を付けるべきだ

と僕は思いますけどね。

○羽生 特にね。京橋がね、いち早く来ているわけですよ。津波は来ていますよ。だけど皆さん優雅ですよ。その辺がね。やっぱり業態変革か構造変革かチェンジしなくてはいけないんだけど、そのチェンジする体力とお金が必要だということもあり、分かっているけど出来ないですよということがあると思うんですよ。

○花崎 新聞を見ると大企業がこのところでV字回復していますよね。あれはやっぱり強烈に業態変革しているわけですよ。厳しさをやっぱり導入して、本社を地方の工場に移転するとか、本当に我々には考えられないくらい荒治療をしているのですよね。我々中小企業は本当にやっぱり出来ないということもあるけれども、やっていないというのも現実としてあると思いますよね。

○羽生 いや、これからね、やっぱり価格競争がもっと、デフレスパイラルではないけれども、厳しくなると同時にそれについていかれなければどんどんアウトになってしまいうので、やっぱり業態変革を出来ないからではなくてやっていかないと生き残れないと思います。我々印刷業は大企業のお客様を持っているほどつらく厳しいですよ。これは価格競争に巻き込まれますから。それからおっしゃっていた通り、ITを使うことによって世界統一の価格というのではないですけども、中国やベトナムやインドのように低賃金

のところの方が優遇されて来るということですね。印刷業でもリードタイムが1週間あるものについてはほとんど多国籍へ移ってしまいうのではないかと思うわけですよ。

というのはアジアペーパーが同じ品質の基準になってしまいましたから、それから印刷機も同じですから、要はオペレーター、例えばそこに日本人が何ヶ月か何年かいれば全く同じ物ができてしまうことになりやすから。それからネットを使えばデータは税金はかからずに無条件で飛んで行きますから、そういうことをきちんとすれば本当にリードタイムがある印刷物では負けていってしまうと思いますよね。それを本部としては、例えば今は韓国がものすごく元気になりました。韓国が今こうなっているのは逆に言うと今度は中国なわけですよ。最終的には中国に行ってしまうわけだから、そうすると逆に今度は印刷物が例えば具体的に言えばカレンダーとか手帳とかそういうものは全部も中国に行ってしまう。むしろそういうリードタイムがあるのはどんどん流れて行ってしまうということになると、結局構造変革、それから同時に大企業の仕事をやっているところは、中国だのベトナムの方で工場を作ったと同時にそっちに全部移ってしまうということが、一緒に移るということで1つのそういう問題が今後多く出て来るのではないかと思いますよね。本部としてはそういうのはやっぱり致し方ないですか。

○花崎 先ほど言ったように、自分が、例えばカレンダーを自分のところでやっていてこれが中国に流れそうだということになれば、やっぱり自分が中国のパートナーを探して、お客様より先に手を打ってそこで生産させていくスタンスでいると。取られる前に自分たちが動いてその商圏は守るという努力が必要なのかなという気がするわけです。中国のパートナー探しというのはそう難しい話ではないと思いますし、取られたら取られっぱなしではなくて、何かそこは死守するというね。自分のところでは中国で印刷してもらえないようなところを探すとか、何か対抗策は打っていかないとそれを見ているだけだぞとどんな業態が弱くなってしまう気がしますよね。

○羽生 事例ですけども、年賀状が今データの処理が大連にみんな握られて、大連で処理が終わったら戻ってきてそれでみんなプリントするというんですけども、これからカラーも全て向こうで全部データ処理をして日本に戻って来ると。これは何の条件もなくネットを使えば全てできてしまうので、そうするとコストダウンの戦いとか、そういうことになるわけですよ。それが今後結局例えば色んな印刷物をテンプレート化すればそこに名前とか絵柄を入れるということだけで終わってしまう時代が来ると思います。そうすると価格競争がもっと出るのではないかなと僕自身は思いますけどね。



○小宮山 だからモノを作るといふことだけに

考えていたらたぶん価格競争の世界から抜けれないと思いますよ。やっぱり頭を取るといふのかな、やっぱり企画の辺から取っていかないと駄目だと思うわけで、日本の産業といふのはモノづくりモノづくりと、確かにモノづくりはすばらしい、良いことだと思いませんけれども、あんまりにもそこに執着してしまつたから結局今の形になつてしまつたのかなと思いますよ。日本の技術を持つてすれば韓国サムスンとかねヒュンダイとか目じゃないと僕は思いますよ、本来ならば。でも何か方向間違えた結果こうなつてしまつたのだと思いますよ。だから印刷会社もどちらかと言へばその傾向はあるのかなと思うので、そのところは早いところ脱却して、やっぱり機械に頼らない印刷業というようなどころに持つていかないと、本当に価格だけ値段だけの勝負だけでは駄目だと思いますよ。

○羽生 そのコンテンツをいかに上手く利用しながら、お客様の売上を増やす方法をバックアップしてあげることが、一番重要なことかなと思いますけれどもね。

○花崎 ですから経済産業省が我々の業界に対して感性価値といふことを盛んに言つて、モノを作る価値プラスデザインとか企画とか、そういうところを強化していかないと駄目ですよという方向が伝えられて来ているのですよね。そこをやつぱり強化するといふのは非常に急務だと思います。我々の業界とし

ては。

○羽生 その感性価値を強化する意味はやつぱり社長、経営者が一生懸命努力をしているのを社員に伝え、教育していくと同時にそういうもののバックアップといふコラボレーションを上手くしないと。結局つき詰めるところは教育となつてしまふんですけど。

○小宮山 前線で働いているのは社員でしようからね。その人たちの感覚によつて仕事のチャンスが出てくるのではないでしょうかね。

○花崎 今やつぱりデザイン業界もかなりきびしいですから。プロダクションとかデザイン事務所が意外に我々が使いやすい環境に来ていふと思うわけですよ。値段はいくらでもいふといふ時もあるし。だからそういうところは上手く最初は使つていくということですよ。社員が成長するまでの間はそういうデザイン会社の人にお客様のところと同行してもらうとか、そういう中で勉強するということも僕は必要だと思ひますし。最初から人を集めてデザイナー揃えてというより、まず外の人間を使つて上手くその辺のノウハウを掴むといふことが必要かなと思ひわけですけれども。

○小宮山 さつき電子書籍の話でキンドルの話が出たじゃないですか。キンドルというのは今アマゾンが企画してやられているようだけれども、アマゾン自体はキンドルのハードを作る能力は全くないわけですよ。あれは

確か台湾かの企業が作つていふわけですよ。前は OEM というのがあつたと思ひますけれども、今は ODM という形で、今アマゾンがこういう物が欲しいと言つた時にデザインから機能まで全て台湾のメーカーが提案するよな形ですよ。これから印刷業といふのはそういうふうになつていかないと、駄目なかなという気がするのだが、ではそれだけの能力が我々中小企業にどこまであるのかというところ、でもやつぱり形としてそういう方向に持つていかないと、我々中小企業の存在価値といふのはなくなつてしまふと思つてしまふよ。

○羽生 今、小宮山さんがおつしゃつたように、そのキンドルのそれにしても任天堂のゲームソフトもそうなのだけれど。任天堂が作つていふわけではない。それから今電機メーカーがみんな EMS を使つて設計するところ、製造するところは別の工場で作る、そんな会社があるわけですよ。その棲み分けといふのがあるわけだけれど、これからの印刷業もそうなるのかなと思ひますよ。要は印刷する、刷りを専門にやるのはほとんど印刷をやりません。一方企画に特化した印刷会社は企画などを提案してどんどんデザインする。そういうふうになつていふことですね。

○小宮山 商業印刷ならばお客様の販促活動にどこまで顔を突つ込めるのかといふところだと思ひわけですよ。なかなか今の我々の力

では頭を突っ込めないで単に言われたことをやるだけで終わってしまっているということがあると思います。そっち側にやっぱりいかに変わっていかけるかということが大事なかなと思いますけどね。

○花崎 その第1歩として、消費者の立場にたつて見ると意外に見えてくることがありますよ。1回会社でやったことがあります、うちのお客様の商品を売っている、例えばたまたま電器の会社だったので、休みの日に家電量販店に行ってお客様の商品がどういう状態であるか全員に見に行かせたのですよ。他社と比べて置いてある場所がどうか、値段がどうか、販促が他社と比べてどういうものがあるか、他社はこういうカタログを置いてあったのか、POPが置いてあったのかとか。必要なら店員さんにこの商品はどうかとかねと他社と比べてその状況を聞いてくると、そうすると5つぐらいの質問に絞られてくるのですが、それが20人の会社でも30人の会社でも30集まるということは非常に情報として有益なんです。そういうデータを持ってお客様のところに行って、実はこの商品こうでしたねと、そういう話をするお客様は印刷会社でも自分の会社のこの商品のことに興味を持っていただくと感じて頂ける。実は他社はこうやっていましたよ、販促のPOPが足りませんか、何かそういう消費者の視点で見ると意外に簡単に見えてくるといふ。それと社員がそういうことをする

と単に印刷するだけではなくてお客様の商品に対して非常に興味を持つ。他社との状況がどうかとか常にそういうところに視野が広がる。今まではこのカタログを作ることにしか頭がいつていなかっただけでも、この商品がどういう状況なのかということに興味を持つ。だから難しいことを考えないで消費者の立場でお客様の商品を見てみなさいと。それを率直にお客様に話すことによって非常に話を通じるといふ。理論だったマーケティングということではなくて消費者の視点でお客様の商品を見てみるという。そういうのが身近な第一歩のような気がします。

○小宮山 確か業態変革の推進プランとか実践プランは分からないけれども、お客様をもっと知ろうという項目がありましたよね。まさしくその通りですよ。結構我々お客様が何をやっているか知らないで印刷することが多いですよ。今花崎さんが言ったようなことというのは、そんな資本がかかるわけではないし、ちょっと時間を融通すればできることです。そういう意味で我々中小企業ができるマーケティングの第一歩というのはその辺にあるのかもしれないね。

○花崎 だから会社から今週末、どうせ買い物行った時にはこういうことを見て来てくれと、社員全員にリストを配って。これは貴重なデータですよ。社員教育にもなると。全が難しく考えないで何かできることの第一歩が僕はあるような気がするね。そこに気がつ

いて難しい難しいと言っていないで何か一歩ずつ足を踏み出すと何かその次が見えてくるみたいな。とりあえずスタートしましょうよというのが全工連の業態変革のテーマですけれどもね。

○羽生 走ってみて何か起きたらそこで考えるということですよ。走る前から理論言わないで何しろ走ってみて。

○小宮山 せっかくああいいう良い教科書があるのに。あれがまるつきり自分たちの会社で100%使えることはないと思うわけですが、でも参考にはなることだと思いますね。

○花崎 あれをだから自分の会社に置き換えたかどうかということは考えられれば。

○小宮山 確かに自分の会社向けに翻訳しないと駄目だと思うのだけど、翻訳努力してまだ我々足りないのかもしれない。

○花崎 びつたりのものなんて絶対ないですよ。だからこれは役に立たないという方が多いわけだけど、それはそれぞれの会社のお客様だつて違うわけだし状況が違うのだからびつたりのものは絶対ないのだから。

○小宮山 そうですね。

○羽生 山崎さん、ちょっと休憩しますか。

○山崎 そうですね。

ここで第一部は一端終了と致します。この続きは第二部として次の機会に掲載したいと思います。

# 平成21年度 京青会の活動報告

京青会会長 恒本 平

4月23日に通常総会を例年通り第一ホテルアネックスで行いました。

5月14日に「カーボンオフセットとカーボンフットプリント」について、会員の田島久義さんが講師となり、環境と印刷の今後についての研修会を行いました。

6月24日に講演会「松下幸之助に学ぶ、叱られ問答」を開催、会員の増田さんの知人でパナソニック顧問の木野親之先生を講師にお願いしました。中央区、東京商工会議所に後援していただき、京橋支部員、他支部青年会、東商会員と多くの方にご出



講演会「松下幸之助に学ぶ、叱られ問答」

席賜りました。

7月24日に納涼会、はとバスツアーで「新宿の夜景とマジックショー」ミステリーツアーで集合場所のみの案内で、どこに連れていかれるのか？ワクワクしました。

9月11日に「そば打ち体験と試食会」を築地そばアカデミーで行いました。プロの方も勉強に来る場所で、最初に先生のデモンストレーション、その後各自で粉に水を加水するところから、こねて、伸ばして、切つての2時間30分の研修で、非常に集中力が高まりました。自作はお土産品に、最後に先生のそばを御馳走になり、打ち立てのそばの上手さを官能しました。



そば打ち体験と試食会



10月31日に「支部と共催ゴルフコンペ」を東筑波カントリークラブで行いました。天候にも恵まれ、皆様トーナメントコースを満喫されたと思います。

11月12日に「製本加工工程について」研修会を行いました。会員の松川さんの協力会社の(株)皆伸様にご協力いただき、無線とじ、中とじの工場ラインの見学、その後、ページものの面付けの注意等、良い製品に仕上げるための工夫など、活発に質疑応答がなされました。

12月18日に忘年会、秋葉原のモエー系居酒屋で行いました。

2月5日から6日「支部新年会」熱海さくらやと、同日開催の東青協行事の「プリントネクスト」フォーシーズン椿山荘にそれぞれ参加しました。

2月20日から21日「工場見学研修旅行」で朝西紙商事(株)と(株)竹尾様のご紹介で、日清紡ペーパープロダクツ(株)の富士工場へ行きました。バンナーボーヤきらびき等の製造工場で、特殊紙の製造ライン、エンボス等の表面加工ラインを午前中見学しました。昼食後、久能山東照宮を見学して、焼津の旅館に泊まり、翌日は石垣いちご狩りをしました。

4月22日の京青会 通常総会で私の2年の任期も終了します。全会員、6名の京青会顧問、羽生支部長をはじめ支部の先輩方、関連業界の方、多くの皆様に支えられ会長職を何とかやってきました。御礼申し上げます。今後も京青会にご指導、ご協力をお願いいたします。



工場見学研修旅行

# 支部の動き

▽平成 21 年度

4 月 2 日(木)部長・監査・地区長・京青会会長・

IT委員会

4 月 3 日(金)「顧問・相談役・参与の会」

於・江東区「おおぎ」

4 月 10 日(金)ITセミナー

於・京華スクエア 2 階

4 月 17 日(金)「環境セミナー」

於・日本印刷会館 2 階

4 月 23 日(木)本部支部長会

於・日本印刷会館 2 階

4 月 24 日(金)部長・監査会

於・京華スクエア 2 階

5 月 8 日(金)「環境セミナー」

於・日本印刷会館 2 階

5 月 12 日(火)部長・監査・地区長・京青会会長・

IT委員会

於・京華スクエア 2 階

5 月 15 日(金)東印工組「総代会」

於・東京プリンスホテル

5 月 21 日(水)東印工組日本橋支部「新年会」

於・銀座プロッサム

5 月 21 日(水)東製工組合京橋支部「通常総会」

於・銀座プロッサム

5 月 22 日(金)21 年通常総会

於・銀座ファイナート「日光」・「ラ・ク

ボール」

司会 副支部長

森山徹太郎

1、開会のことば

金山副支部長

2、あいさつ

羽生支部長

3、議長および副議長の選出

4、議事

第 1 号議案

平成 20 年度事業報告

白橋副支部長

第 2 号議案

平成 20 年度収支決算報告

小宮山副支部長

平成 20 年度監査報告

第 3 号議案

神田・尾島監査

第 4 号議案

平成 21 年度事業計画(案)

白橋副支部長

第 5 号議案

次期役員選考委員の選任につ

いて

小宮山副支部長

羽生支部長

5、議長および副議長の解任

6、前支部長への感謝状および前期役員への記

念品の贈呈

7、来賓紹介・あいさつ

東京都印刷工業組合副理事長

花崎 博己殿

中央区区長

矢田 美英殿

中央区区民部商工観光課課長

黒川 眞殿

中央区工業団体連合会会長

水野 雅生殿

東京都印刷工業組合日本橋支部副支部長

長谷川 豊殿

東京都製本工業組合京橋支部支部長

井上 貴司殿

中央厚生事業協同組合理事長

長山 浩殿

東京商工会議所中央支部事務局長

安罵 潔殿

8、閉会のことば

永井副支部長

◎懇親会

進行 副支部長 森山 照明

あいさつ 羽生支部長

「長寿者」祝賀および記念品の贈呈

長寿者代表挨拶

新富地区・コクダイ印刷(株) 大嶋和十三殿

乾杯 京橋支部顧問 宇野 一男殿

—— 敬談 ——

中 締 東京都印刷工業組合京橋支部前支部長

西山 昇殿

5 月 26 日(火)中央厚生事業協組「通常総会」

於・銀座ファイナート

5 月 27 日(水)第 1 回・ハイテクセンター・ランチ

セミナー

於・京華スクエア 2 階

6 月 4 日(木)本部支部長会

於・日本印刷会館 2 階

6 月 10 日(水)工団連「定時総合」

於・銀座プロッサムローズ

- 6月11日(木)部長・監査・地区長・京青会会長・  
IT委員会  
於・京華スクエア2階
- 6月12(金)13日(金)中央区工業事業主・従  
業員宿泊研修会  
於・戸倉上山田温泉
- 6月24日(水)第2回・ハイテクセンター・ランチ  
セミナー  
於・京華スクエア2階
- 7月2日(木)本部支部長会  
於・日本印刷会館2階
- 〔懇親会〕  
於・東京湾クルーズ
- 7月3日(金)「拡大幹事会」  
於・グランドプリンスホテル高輪・新高輪
- 7月9日(木)「GPマーク説明会」  
於・日本印刷会館2階
- 7月20日(月)中央区商工団体ソフトボール大会  
於・月島運動場
- 7月21日(火)FSC(森林認証)取得説明会  
於・京華スクエア2階
- 7月22日(水)第3回・ハイテクセンター・ランチ  
セミナー  
於・京華スクエア2階
- 7月23日(木)本部理事会  
於・日本印刷会館2階
- 7月27日(月)第2回「GPマーク説明会」  
於・日本印刷会館2階
- 8月24日(月)部長・監査会  
於・京華スクエア2階
- 9月3日(木)本部支部長会  
於・日本印刷会館2階
- 9月7日(月)部長・監査・地区長・京青会会長・  
IT委員会  
於・京華スクエア2階
- 9月9日(水)本部「敬老の集い」  
於・明治記念館
- 9月15日(火)第3回「GPマーク説明会」  
於・京華スクエア2階
- 9月16日(水)第4回・ハイテクセンター・ランチ  
セミナー  
於・京華スクエア2階
- 10月1日(木)本部支部長会  
於・日本印刷会館2階
- 10月2日(金)部長・監査・地区長・京青会会長・  
IT委員会  
於・京華スクエア2階
- 10月13日(火)「ITセミナー」  
於・京華スクエア2階
- 10月27日(火)「ITセミナー」  
於・京華スクエア2階
- 10月28日(水)第5回・ハイテクセンター・ランチ  
セミナー  
於・京華スクエア2階
- 10月31日(土)支部「ゴルフ大会」  
於・東筑波カントリークラブ
- 11月5日(木)本部支部長会  
於・日本印刷会館2階
- 11月6日(金)部長・監査・地区長・京青会会長・  
IT委員会
- 11月10日(火)「ITセミナー」  
於・京華スクエア2階
- 11月13日(金)「顧問・相談役・参与の会」  
於・グランドプリンスホテル新高輪(B3)
- 11月19日(木)本部理事会  
於・日本印刷会館2階
- 11月24日(火)「ITセミナー」  
於・京華スクエア2階
- 11月25日(水)第6回・ハイテクセンター・ランチ  
セミナー  
於・京華スクエア2階
- 11月27日(金)部長・監査会  
於・京華スクエア2階
- 12月3日(木)本部支部長会  
於・日本印刷会館2階
- 〔懇親会〕  
於・みつはし
- 12月4日(金)部長・監査・地区長・京青会会長・  
IT委員会(忘年会)  
於・「番屋」八重洲本店
- 12月9日(水)第7回・ハイテクセンター・ランチ  
セミナー  
於・京華スクエア2階
- ▽平成22年度  
1月20日(水)第8回・ハイテクセンター・ランチ  
セミナー  
於・京華スクエア2階
- 1月21日(木)部長・監査会  
於・京華スクエア2階



- 1月21日(木)東製工組合京橋支部 「新年研修会」  
於・sunmi 高松店
- 1月27日(木)中央厚生事業協組「新年会」  
於・銀座ラフィナート
- 1月27日(木)東印工組日本橋支部 「新年会」  
於・サリユコバン第一日本橋支店
- 2月4日(木)本部支部長会  
於・シオザワ
- 2月5〜6日(金土)支部「新春のつどい」  
於・熱海 さくらや旅館
- 2月12日(金)部長・監査・地区長・京青会会長・  
IT委員会
- 於・京華スクエア2階
- 2月16日(火)ITセミナー(3連続) 1回目  
於・京華スクエア2階
- 2月18日(木)21年度中央区中小企業工業関係者表  
彰式  
於・銀座プロッサム
- 2月19日(金)本部「組合員の集い」  
於・浅草ビューホテル
- 2月24日(水)G Pマーク・Pマーク説明会  
於・京華スクエア2階
- 2月24日(水)第9回・ハイテクセンター・ランチ  
セミナー  
於・京華スクエア2階
- 3月4日(木)本部支部長会  
於・日本印刷会館2階
- 3月11日(木)部長・監査・地区長・京青会会長・  
IT委員会  
於・京華スクエア2階
- 3月16日(火)「ITセミナー」Part 2  
於・京華スクエア2階
- 3月24日(木)第10回・ハイテクセンター・ランチ  
セミナー  
於・京華スクエア2階
- 3月25日(木)本部理事会  
於・日本印刷会館2階
- 4月14日(水)部長・監査会  
於・京華スクエア2階
- 4月20日(火)ITセミナー(3連続) 3回目  
於・京華スクエア2階
- 5月11日(火)22・23年度新役員顔合せ会  
於・コートヤード・マリオート銀座東武ホ  
テル 4階
- 5月19日(金)22年通常総会  
於・銀座ラフィナート「日光」・「ラ・クー  
ポール」  
司会 副支部長 森山徹太郎  
1、開会のことば  
2、あいさつ  
3、議長および副議長の選出  
4、議事  
第1号議案 平成21年度事業報告 金山副支部長  
第2号議案 平成21年度収支決算報告 小宮山副支部長  
平成21年度監査報告 神田・尾島監査  
第3号議案 平成22年度事業計画(案) 金山副支部長
- 第4号議案 平成22年度収支予算(案) 小宮山副支部長
- 第5号議案 次期役員の承認 推薦委員会 荒川 龍治委員
- 5、新支部長挨拶
- 6、議長および副議長の解任
- 7、来賓紹介 東京都印刷工業組合理事長 水上 光啓様  
中央区区民部長 矢田 美英様  
中央区区民部長 齋藤 弘様  
中央区区民部商工観光課長 黒川 眞様  
中央区工業団体連合会会長 水野 雅生様  
東京都製本工業組合京橋支部支部長 安 潔様  
東京都印刷工業組合日本橋支部支部長代理 井上 貴司様  
中央厚生事業協同組合理事長 長山 浩様  
東京都印刷工業組合京橋支部支部長代理 長谷川 豊様  
中央支部長 (社)東京グラフィックサービス工業会中央支  
部支部長 早坂 淳様
- 8、閉会のことば 永井副支部長

懇親会

進行 副支部長 森山 照明

あいさつ 羽生支部長

関連業界代表挨拶

(株)山口封筒店代表取締役社長

山口 一夫様

乾杯

京橋支部顧問 十文字康雄様

新役員紹介

本部出向役員紹介

—— 歓 談 ——

京青会新役員紹介

関連業界紹介

中 締 京橋支部顧問

閉会の挨拶

5月27日(木)次期部長・監査・京青会会長の会

於・京華スクエア2階

6月9日(水)工団連「定時総合」

於・銀座プロッサムローズ

6月10日(木)部長・監査・地区長・京青会会長の会

会

於・京華スクエア2階

6月11~12日(金~土)中央区工業事業主・従業員宿泊研修会

於・福島県母畑温泉「八幡屋」

7月8日(木)部長・監査・地区長・京青会会長の会

会

於・京華スクエア2階

7月13日(火)GPマーク取得の説明会

於・京華スクエア2階

於・京華スクエア2階

7月24日(土)京橋支部「拡大幹事会」

於・横浜 華正楼 本店

8月1日(月祝)中央区商工団体ソフトボール大会

大会

於・月島運動場

9月2日(木)部長・監査・京青会会長の会

於・京華スクエア2階

9月14日(火)京橋支部・日本橋支部共催「講演会」

於・日本印刷会館 2階

・テーマ..経営者必修!リーダーが身に

つけるべき経営の原理原則

・講師..小宮 一慶氏 (株)小宮コンサルタンツ代表取締役

ルタンツ代表取締役

慶弔報告

慶 弔 事 (結婚)

○新川地区

宇野印刷(株)社長ご長男

宇野 一平殿

11月

弔 事

▼湊地区

加賀美印刷(株)会長

加賀美 博殿

5月

▼新川地区

中庭印刷(株)社長ご令閨

中庭あい子殿

7月

岸 宏子殿

▼入船地区

光信印刷(株)会長

武村 健司殿

9月

▼新川地区

伊坂美術印刷(株)会長

伊坂 元延殿

9月

▼築地地区

小森印刷(株)社長ご母堂

小森 房枝殿

10月

▼築地地区

山之内印刷(株)社長ご尊父

布施 勝義殿

10月

▼湊地区

湊印刷所社長ご母堂

山本 和子殿

11月

▼入船地区

(株)小薬印刷所社長

小薬 忠昭殿

12月

▼築地地区

山之内印刷(株)社長ご母堂

布施 君代殿

2月

▼八丁堀地区

8月

▼入船地区

光信印刷(株)会長

武村 健司殿

9月

▼新川地区

伊坂美術印刷(株)会長

伊坂 元延殿

9月

▼築地地区

小森印刷(株)社長ご母堂

小森 房枝殿

10月

▼築地地区

山之内印刷(株)社長ご尊父

布施 勝義殿

10月

▼湊地区

湊印刷所社長ご母堂

山本 和子殿

11月

▼入船地区

(株)小薬印刷所社長

小薬 忠昭殿

12月

▼築地地区

山之内印刷(株)社長ご母堂

布施 君代殿

2月

▼八丁堀地区

8月

▼入船地区

光信印刷(株)会長

武村 健司殿

9月

▼新川地区

伊坂美術印刷(株)会長

伊坂 元延殿

9月

▼築地地区

小森印刷(株)社長ご母堂

小森 房枝殿

10月

▼築地地区

山之内印刷(株)社長ご尊父

布施 勝義殿

10月

▼湊地区

湊印刷所社長ご母堂

山本 和子殿

11月

▼入船地区

(株)小薬印刷所社長

小薬 忠昭殿

12月

▼築地地区

山之内印刷(株)社長ご母堂

布施 君代殿

2月

▼八丁堀地区

# 支部員の異動

田島 みや殿 7月  
 ▼入船地区  
 弘報印刷(株)社長ご母堂  
 津下八重子殿 9月

## ○新加入組合員

・築地地区、サンロウタス(株) 村上 伶殿 9月  
 ・新富地区、(有)エススリーカンパニー 坂上 健二殿 2月  
 ・銀座地区、(株)小西印刷所東京支店(元準組) 小西順三郎殿 3月  
 ●脱退組合員  
 ・銀座地区、(株)シグナルフォート 佐々木邦夫殿 6月  
 ・築地地区、(株)高陽堂印刷(準組) 崎田 秀知殿 6月  
 ・新川地区、高千穂印刷(株) 上原 壽行殿 11月  
 ・新富地区、(株)ひとみ 人見 忠男殿 11月  
 ・湊地区、(有)眞栄社印刷所 高橋 正浩殿 2月  
 ・新富地区、(株)日精ピーアール

中村慎一郎殿 2月  
 ・新富地区、ダイ・コー印刷(株) 伊藤 義昭殿 3月  
 ・入船地区、光信印刷(株) 武村 直明殿 3月  
 ・銀座地区、(株)小西印刷所東京支店(準組) ↓一般  
 小西順三郎殿 3月  
 ・湊地区、協和美術印刷(株) 浅野 知一殿 3月

某月某日  
 錫杖寺にある大奥のお局、瀧山さんのお墓をおまいりしてきました。地下鉄南北線川口元郷駅にほど近い川口市本町二ノ四にありました。NHKの大河ドラマ篤姫に登場し女優の稲森いずみさんが好演しました。もとより瀧山さんそのものを知る由もなく稲森さんをイメージしてのお参りでしたが、瀧山さんを演じる女優さんがその都度お参りに行くそうです。(山崎)



瀧山の墓

編集後記  
 今年は何かと問題が多かった大相撲界ではありましたが一年最後の締め九州場所では双葉山の六十九連勝越を狙っていた白鵬も二日目に敗れ六十三連勝で終わりました。大変残念なことではありますが、反面なにかほっとした感も否めません。それというのも双葉山そのものが日本人の心の奥深くに刻み込まれ神格化しているからでしょう。白鵬自身も双葉山の連勝記録を抜き恩返しをしたかったという談話を発表していました。  
 相撲界にとって神様のような存在の人ではあります。現役時代のそのまた若いころには春秋園事件(天龍事件)がおこりほとんどの力士が協会を脱退してしまつたそうです。その当時、十両にあがったばかりの双葉山は「自分は相撲を取るために、この道に入ったのだ。何でもよいから早く解決をつけて相撲を取らせてもらいたい」また「みんなの主張はよいのかもしれないが、ほんとうに改革すべきことがあれば、内部にいてやるべきだ。鬻を切つて外へ出て分かれてしまつたのでは、改革は出来ないのではないか。」として革新団へ参加しませんでした。「内部にいて改革するだけの方がなくては、およそ改革などできるものではない。」として相撲の稽古に励んだようです。結果は十両から抜擢されて入幕し、後には六十九連勝という大記録を残した大横綱になりました。  
 さて、戦後の長い間、政権与党であった自由民主党が選挙に敗れ野党になったとたんに脱退して新しい会派を作つているようですが双葉山の例を挙げてもなくここは耐え忍び新しい力を付けるべではなからうかと考えます。民主党の政権は鳩山さんで駄目で菅さんもその任ではないようです。いまこそ再結集をはかるべきでしょう。(山崎)



## 東京スカイツリー（押上タワー）



いつの時代も人々は空に向かって伸びる高い建物に心を奪われるものらしい。何かと賛否のあった新しい電波塔も十月二十五日には四百九十七メートルとなり塔屋の建築はおわり後はアンテナ部分を残すだけになった。

七月には地上四百メートルを超えたという報道に接しいたいどんなものができているのだろうかと思ひ八月月上旬に東京メトロ銀座線に乗り浅草へ行き松屋口から隅田川沿いに出て港区新橋へ行く観光船の棧橋から眺めると、なんともいえない素晴らしいさを感じた。おりからの上天気は観光客やカメラ片手の人達で一杯であった。川開きの花火の時にはこんなものではないと警らのお巡りさんが言っていた。

タワーは円形を押し潰したような形で、**心柱制震**という設計で揺れを中心の柱で吸収するという方法である。日本で開発された考え方でお寺の五重塔がこの方法で建てられている。完成時の高さは六三三メートルになる。

新しい電波塔から発信される電波は**地デジ**というワンセグ方式とも云って**携帯電話**と同じ方式をとるそうである。世界的にはアメリカ方式、ヨーロッパ方式があるが概してワンセグ方式は評判がいいらしい。

東京スカイツリーが完成すると今迄の東京タワーはどうなるのだろうかという疑問が残るがタワーは存続され別の電波を送信するそうである。この東京タワーこそ昭和三十年代の我が国の高度経済成長を代表するものである。四千トンの鉄骨を使い五百三十四日間で完成した。東大卒で早稲田大学の教授であった内藤多仲（1886～1970）氏の設計監理である。我が国の塔の父と言われ東京タワーを含め六つのタワーを建てた。東京タワーは五番目で昭和三十年代を総称して高さは三三三メートルである。このタワーを観ると直ぐに思いつくのがフランスのエッフェル塔で、真似をしたのではといわれたが全然違い独自のものである。エッフェル塔はギユエスタープ・エッフェル氏がパリ万博を記念して設計・管理して作られたものである。

東京タワーもパリのエッフェル塔も、その時代を代表して大地を四本柱でしっかりと支えている。両塔以上の設計と監理で創られる東京スカイツリーであるので、その経済効果も大変なものになろうと期待されている。

願わくば我が印刷業界も天にとどくほどの成長を期したいものである。

（編集委員・銀座・山崎）